



Newsletter

No.20 (2008.3.3 発行)

JAICOWS 総会のお知らせ

下記の要領でJAICOWS 総会と講演会を開催します。多数の皆様のお集まりをお待ちしています。

JAICOWS 会長 原ひろ子

日 時：2008年3月21日（金） 11：00～12：00 役員会
13：00～14：00 総会
14：00～16：30 シンポジウム

場 所：日本学術会議 会議室（例年とちがいますのでおまちがいのないよう）

総会議事

1. 07年度事業報告
2. 07年度会計報告
3. 08年度事業計画
4. 08年度予算
5. その他

シンポジウム 学術会議法学会委員会ファミリーバイオレンス分科会と共催

「ファミリーバイオレンスに如何に対処すべきか」

講演：戒能 民江「ファミリーバイオレンスへの法的対策－韓国・台湾を例として」

奥山真紀子「児童虐待への対応策」

岩井 宜子「親族間殺人の現状と問題点」

司会：町野朔氏

閉会のあいさつ：原ひろ子会長

・出欠の有無・委任状を同封のはがきで 3月15日までにご返送ください。

本会会員 加賀谷氏がスポーツ医・科学賞功労賞・受賞

本会会員の加賀谷淳子氏（日本女子体育大学客員教授）が、スポーツ医・科学の分野で功績を残した研究者を顕彰する「第10回秩父宮記念スポーツ医・科学賞」の功労賞を受賞されました。記念講演では「運動と末梢循環調節機構に関する基礎研究」について、実験結果を示しながら、「効果的で安全なトレーニング計画を作成することが大切」と、健康作りの注意点などを訴えられました。

加賀谷氏はお茶の水女子大学時代から、血液などの循環機能や筋持久力といった分野に興味を持ち、1977年に日本女子体育大学助教授に。マラソンを走った学生の足がパンパンに張っているのを見たことをきっかけに、「運動と筋血流量」など運末梢末梢循環調節機構に関する基礎研究に進みました。91年から日本体育協会スポーツ医・科学委員。中高年の運動としてのジョギングなど有酸素運動が取り上げられていた当時、加齢による筋力低下に注目し、中高年の筋力トレーニングと動脈硬化防止の関係などについて研究。中高年の健康作りで新たな方向性を示す先進的な取り組みでした。座右の銘は「夢をもって努力すれば、いつか夢はきっとかなえられる」。今も、血管の弾性を高めるための、年齢に応じた最適な運動などに思いをめぐらしておいでです。

2007年度 2月20日までの会計報告

例年会計報告が大変遅くなりますので、今回は2月20日までの会計報告をとりあえずさせていただきます。来る3月の総会で承認されて、初めて正式のものになります。

1. 収入の部

勘定科目	予算額	2008/ 2/ 20	差異(△収入減)	備 考
繰越金	256,702	256,702	0	
会 費	610,000	554,000	56,000	110人分 (72.3 %)
利 子	200	236	△36	
寄 付	100,000	0	100,000	
合 計	966,902	810,938	△155,964	

2. 支出の部

勘定科目	予算額	2008/ 3/ 20	差異(△支出増)	備 考
通信費	30,000	15,200	14,800	往復はがき代、宅配便代、発送手数料等
Newsletter印刷費	170,000	37,800	118,430	No.19.
Newsletter 発送費		13,770		
行事費	30,000	0	30,000	
会議費	50,000	0	50,000	
事務局費	40,000	40,000	0	アルバイト代
交通費	10,000	0	10,000	取材費
学会業務委託費	420,000	420,000	0	
予備費	216,902	16,485	200,417	振込手数料、献花代
合 計	966,902	543,255	423,647	

2008年2月20日現在 会員数 152名

猿橋勝子先生の訃報

日本学術会議の初の女性会員で、本会の設立にも尽力された地球化学者 猿橋勝子さんが昨年9月29日、87歳で亡くなりました。1958年には「日本婦人科学者の会」の創設にかかわり、さらに80年には気象庁

気象研究所の地球科学研究部長を退官した時のお祝い金を基に「女性科学者に明るい未来をの会」を作って、すぐれた業績をあげた女性科学者に毎年、「猿橋賞」を贈ってこられました。学会や職場で責任ある立場に選ばれることが増えた受賞者の多くは今、「後進を育てたいという気持ちから言葉は厳しかったが、根は優しく」と感謝の言葉を口にされています。

帝国女子理学専門学校（現、東邦大理学部）から戦時中の1943年、「戦争に加担したくない」との思いから中央气象台（現、気象庁）に就職し、師となる地球化学者、三宅泰雄博士との出会い、海水の化学的性質を明らかにするために含まれる炭酸物質の量を正確に計算して世界に認められました。54年にビキニ環礁で水爆実験があった時は、「死の灰」が日本近海まで到達したことを発表しています。米国の研究者は信じませんでしたが、渡米して共同研究をし、日本の測定法の高い精度を認めさせました。「女性が男性と同じ業績を上げようとするれば、15倍の努力が必要だ」。そんな時代を背負って生きてきた方でした。猿橋賞はこれからも、遺志を継ぐ人たちの手で続けられるとこのことです。

10月21日には「猿橋先生を偲ぶ会」が開かれ、JAICOWSからも花籠を献花させていただきました。

女性研究者の環境改善に役立つ事業のその後を追う

これまでJAICOWSは女性研究者の環境改善に役立つと考えられるいくつかの提言をしてきました。社会の追い風もあって、その多くが制度的な実現をみえています。たとえば近年では研究者の旧姓使用や産休時の科学研究費支給期間の延長、非常勤講師の科学研究費応募資格などです。ところが2008年1月に開催された役員会では、制度の実現で満足せずに、その制度がどのように利用されているのか、利用を阻む要因は何か、などその後の状況を追い、さらに必要な提言をしていく必要があるとの見解で一致しました。もとより我々の情報収集能力や時間的制約がありますので、遅々とした歩みになりますが、どうか会員の皆様からも積極的な情報をお寄せいただきますようお願い致します。

今回は第1回として特別研究員RPDの制度の概要と事業のその後をお知らせします。

「特別研究員-RPD」事業のその後

制度の概要

この事業は2006年度から実施され、非常勤研究員や任期付ポストで、出産・育児休業制度が適用されないうえにその職を辞めざるを得ないなど、その後の研究現場への復帰が困難な方が研究活動を再開するための支援を行うものです。申請資格は採用年度の4月1日現在、博士の学位を取得し、応募する年度の4月1日から遡って過去5年以内に、出産又は子の養育のため、概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した者。ただし、博士の学位については申請時見込みも含むとか、人文学又は社会科学では、日本の博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位に相当する能力を有すると認められる者も含まれています。採用されると月額30万円以上（予定）のほか、科学研究費補助金（特別研究員奨励費）の応募資格が与えられ、科学研究費委員会の審査を経て毎年度150万円以内の研究費が交付されることになっています。

採用者の概要

2006年度、2007年度に各30名が採択されており、分野は数物、工学などを含めて多岐にわたっています。

メールインタビューから見たこの制度の評価

今回この制度に申請し採用された方2名と採用されなかった方1名（その後大学に就職）にメールでご意見をうかがうことができました。3人とも（人文・社会科学系の研究者）経済的心配をしないで研究に打ち込めたとこの制度を高く評価されていましたし、何よりも「子どもを産んだからといってマイナスに評価しないで励まされた」という精神的支援が大きかった、と書いてこられた方もいます。しかし、問題点もあるようで、それは次の4つにまとめられるかと思います。

問題点

1. 申請資格と採用基準のあいまいさ、矛盾

「研究の中断」が申請資格になっていますが、何を持って中断と判断されるのかが曖昧で申請時に悩まれるようです。実は研究上大切な時期に当たるので3ヶ月も研究から全く離れるということはあまりないのですが、「いかに大変で中断せざるをえなかったか」を書かないと採用されないとされます。一方、出産前後に海外で研究したような場合には、それが「中断しないで研究を継続できた」と受け取られるのか、というような悩みもあります。

一方で業績の審査もされますが、本当に中断した人は業績があまりなくてもしかたないはずですが、すなわち、「研究の中断」の基準が曖昧だともいえますし、中断と業績審査が矛盾しているともいえます。

2. 妊娠中の扱い

この制度は復帰に重点があるので、二人目を出産予定というのは後の研究継続の意志を疑われて不利になるのではないかと、恐れた方もあるようです。そのあたりの基準も曖昧だと思われるのですが、妊娠していて出産予定の人がこれに応募できるとしたら、ずいぶん安心して産めるのではないのでしょうか。

3. 保育園との関係

特別研究員の制度自体、学術振興会ともまた籍を置く研究機関とも雇用関係にあるわけではないので社会的には認知されにくいものです。そのため、保育所から見ると「働いていない」ようであり「保育に欠ける」と認定されにくいという問題があります。この点、学術振興会などでもう少し広報をしてほしいという要望がありました。

4. PDは3年なのになぜRPDは2年なのか

本当に研究を中断した人が2年で復帰するのはかなり困難だと指摘がありました。これも中断の時間や状況によるものと思われるのですが、少なくともPDより短くする意味は何なのでしょう？限られた予算のなかで人数を増やすかわりに年数を縮めたという話もありますので、どういうふうに要求していくのかは難しいとは思いますが。

まとめ

3人のメールから私がつくづく感じたのは、出産・育児期の女性研究者の大変さは、あまり変化していないということです。出産のタイミングの見極め、他の研究者から「降りた」と思われるのではないかと不安、現実の育児による時間的拘束などのなかでがんばっている女性研究者をもっと応援できるように、これらのご意見のなかから要望をまとめて提出していけるようにしたいと思います。（直井道子）

女性科学者のインタビュー・リレー [4]

おいしさの秘密を科学で解く

～研究者としての半生と調理学～

畑江 敬子さん 和洋女子大学教授・内閣府食品安全委員会委員



1. おいしさを評価する

Q 食の安全やレストランのブランド化が進んでいる現在、どのようなジャンルの研究を専門にしていられるのでしょうか？

A おいしさを評価し、おいしく調理する調理学です。味や噛みごたえ（テクスチャー）、外観（こげ色とか盛り付け）など人間の感覚器官がとらえる「おいしい」食べ物を、客観的測定値で示すことが私の専門です。種々の機器測定を行って食品の成分、組織、物性と調理過程の技術的操作の関係を明らかにします。

また人間の側からは官能評価（被験者に食べてもらう）を行い、データを数値化します。双方のマッチングによって「おいしさの秘密」が少しずつわかります。（著書「調理学」東京化学同人発行、2003年）

Q 研究者としては、順調な道のを歩まれたわけですね。

A とんでもない。大学の家政学部を卒業した後、会社を二年で寿退職して結婚しました。家庭に入ってから補欠募集で大学院に入りましたが、同じ年に子どもができました。実家の母に手伝ってもらいながら育児と勉強を続けて、4年間かけて修士号を取得。長い道りでしたが、研究室の教授たちが女性のライフスタイルに理解があったおかげで、今日まで続けてこられたのです。

2. セカンド・チョイスの旅立ち

Q 大学の教員にはいつなりましたか？

A 教員としてのスタートが遅く、満41歳の時にお茶の水女子大学の専任講師になりました。44歳で理学博士号をとりました。なぜ遅いのかと原因を考えると、私の半生はセカンド・チョイスが多かったためだと思われます。

Q それはどういうことですか？

A 高校時代に悟ったのです。ある大学の附属高校で学びましたが、クラスの半分以上が男子生徒で皆がとても頭がよくて、とてもかなわない。こういう人たち（トップレベルの大学に進学を希望）と競争しても到底ムリだ。そこでセカンド・チョイスとして、こういう言い方は失礼とは思いますが、男と競争しないところ、つまり、女子大学へ進学しました。女子大学の中でも家政学部へ。その中でも女性教授の多い教室へ進んだのです。多感な娘時代に、自己評価を含めてそういう進路選択をしたことは、後に影響しているかもしれませんね。

Q セカンド・チョイスの利点はどこにありますか？

A 気楽で安全だということです。男女共同参画の活動でも私は先頭には立てません。リーダーの側に居て、総務のニュースレター発送など実務をサポートしてきました。そういう仕事の積み重ねの中で、リーダーが切り拓いてくれたベターな果実を、同僚と共に受け取ってきたと思います。ありがたいことです。申し訳ないことです。

3. 一所懸命続けて研究すると助け手が・・・

Q ほかに良いことはありますか？

A いろいろな先生方と協力が進むことです。教え子達は次々に学位を取得しましたが（博士号、修士号）、

他大学の先生方、特に水産学関係の教授にはとても良い指導を受けることができました。調理学の歴史によって、けっこう苦難の道なんですよ。本当に大変なときもありました。でも一所懸命やっていたら必ず助けてくれる人が出てきます。助け手は女性とは限りません。女が女の味方とは限らないし、男が女の敵とも限らないのです。

一生懸命やっていたら、そのプロセスで助けてくれる研究者たちが現れます。必ず協力してくれる人（男女を問わず）にめぐり会えます。「おばさんパネル」と呼ばれている調理学教室の卒業生、研究者グループの中から博士課程に進学する人も増えてきました。修士・博士と進めば自信がつき、態度や表情まで輝きが変わるのがわかります。こうして調理学の裾野をひろげることができました。

4. さしみのテクスチャー

Q 水産学といえば「さしみの科学」はおもしろい本ですね。私の友人に皇宮警察署長をなさった人がいて、天皇とランチを共にする機会があったそうです。ある時、フグ料理が話題になったところ、驚いたことに昭和天皇が身を乗り出して「フグはうまいか？」と聞いてこられたそうです。

A フグには毒があり、現在までの研究では完全な解毒剤は見つかっていません。まわりの方々が差し上げなかったのでしょうか。そこで無毒化したフグを飼育開発する研究者も出ています。

日本にはフグサシ（刺身）に限らず、魚介類の多様な調理法と食文化があり、研究も進化しています。（著書「さしみの科学」成山堂書店発行、2005年）キーワードのひとつに「テクスチャー」（噛みごたえ）があります。刺身、あらい、酢の物、たたき、寿司には塩や酢でしめたり、時間経過をおいて魚介類の成分変化を待つなど高度なテクニックをつかって食感をコントロールする技能があります。この本は私がいちばん面白がって書いたもので、楽しさが皆さんに伝わればうれしいですね。文字通り「おいしさを科学」した本です。

インタビューは国枝タカ子による。

（収録 2006年7月21日）

☆ ☆ ☆

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 専修大学法科大学院 岩井 宜子
Tel 03-3265-6917 Fax 03-3265-6962（直通）
E-mail ths0494@isc.senshu-u.ac.jp
http://jaicows.fc2web.com/

事務センター：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル 株式会社ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

郵便振替 口座番号 00100-8-542793